

関連年表

年号（西暦）	出来事
寛文 6 年（1666）	5 月、（間部）詮房誕生（甲府藩士西田清貞長男）
貞享 1 年（1684）	詮房（19 歳）、徳川綱豊（後の 6 代将軍家宣）の小姓となる このときから「間部」を名乗る
宝永 1 年（1704）	間部詮房、家宣の江戸城西丸入城に伴い、幕臣となる
宝永 3 年（1706）	1 月、間部詮房、若年寄格となり厚木藩主（1 万石）となる 12 月、間部詮房、老中次席となる
宝永 7 年（1710）	間部詮房、高崎藩主（5 万石）となる 間部詮房、この頃、新井白石とともに「正徳の治」を実施
享保 1 年（1716）	間部詮房、8 代将軍吉宗により側用人を解雇、村上藩へ所替
享保 5 年（1720）	7 月、間部詮房、村上で病死（55 歳） 9 月、間部詮言、家督を相続する 9 月、間部詮言、越前鯖江に移封、鯖江藩成立
文化 1 年（1804）	2 月、間部詮勝、誕生（5 代藩主間部詮熙の 3 男）
文化 11 年（1814）	9 月、間部詮勝、第 7 代鯖江藩主となる（11 歳）
文政 9 年（1826）	6 月、間部詮勝、奏者番に就任
天保 2 年（1831）	5 月、間部詮勝、寺社奉行に就任
天保 8 年（1837）	7 月、間部詮勝、大坂城代に就任
天保 9 年（1838）	4 月、間部詮勝、京都所司代に就任
天保 11 年（1840）	1 月、間部詮勝、徳川家斉付西丸老中に就任 5 月、鯖江藩に築城許可
天保 12 年（1841）	3 月、間部詮勝、徳川家定付西丸老中に就任
天保 14 年（1843）	9 月、間部詮勝、水野忠邦と対立し、老中を辞任
嘉永 6 年（1853）	6 月、ペリー浦賀沖に来航
安政 3 年（1856）	間部詮勝、嚮陽溪を造園
安政 5 年（1858）	6 月、間部詮勝、老中再任（勝手掛、外国掛）
安政 6 年（1859）	7 月 間部詮勝、老中首座 間部詮勝、この間に京都で朝廷工作、反幕府勢力弾圧 12 月、間部詮勝、井伊直弼と対立し老中解任
安政 7 年（1860）	3 月、桜田門外の変、井伊直弼暗殺
文久 2 年（1862）	11 月、鯖江藩 1 万石減封、間部詮勝、隠居処分
明治 15 年（1882）	集仙亭帰去来庵（松阜仙窟）跡に松阜神社を創建
明治 17 年（1884）	11 月、間部詮勝逝去（81 歳）



間部詮勝公顕彰祭



日時 令和元年 8 月 27 日（火）

午前 10 時～

会場 松阜神社 拝殿内

顕彰祭（神事）

一、修祓

一、献饌

一、祝詞奏上

一、玉串奉拝礼

一、撤饌

顕彰祭（式典）

挨拶

来賓祝辞

松阜神社の文化財等の解説

主催：間部公をたたえる会

鯖江藩と間部家

鯖江藩主間部家の祖詮房は、寛文6年(1666)に甲府藩士西田清貞の長男として生まれました。能役者の弟子となっていた詮房でしたが、後に甲府藩主徳川綱豊に召しだされ、この頃に「間部」姓を名乗ります。綱豊が第6代将軍徳川家宣となると幕臣となり、高崎藩5万石の大名にまで昇進しました。



間部詮房像（浄念寺）

詮房は、幕府内部では側用人という将軍の側近の地位にあり、新井白石とともに、後に「正徳の治」と呼ばれる幕政改革を断行しました。しかし、8代将軍徳川吉宗により側用人を解任され、享保1年(1716)に高崎藩から越後村上藩へ転封され、4年後の享保5年(1720)7月に病死しました。同年9月、弟の詮言が家督を継ぎますが、すぐに越前鯖江藩に転封となりました。

間部詮勝

間部詮勝は、文化1年(1804)2月に5代藩主間部詮熙の3男として誕生しましたが、5代・6代藩主が相次いで逝去したため、わずか11歳で第7代鯖江藩主となりました。間部家は5万石の譜代大名でしたが、鯖江転封以降は築城を認められず、幕府政治にも関与できないという、幕府からの懲罰的扱いを受けていました。しかし、詮勝は正室簾子の父松平康任(石見浜田藩主で老中)の後押しもあり、奏者番・寺社奉行・大坂城代・京都所司代を歴任し、天保11年(1840)には西丸老中に就任しました。詮勝は幕府政治に関与できない立場でしたが、天保の改革を推進する水野忠邦と対立し、天保14年(1843)に老中を辞任しました。

その後の約15年間、詮勝は幕府政治から距離を置いていましたが、嘉永6年(1853)6月の黒船来航によって日本は未曾有の混乱状態に突入します。このようななか、安政5年(1858)6月、混乱する政局を收拾させるため、詮勝は大老井伊直弼によって老中に再登用され、翌年老中首座となります。詮勝は、日米修好通商条約の調印に激怒した孝明天皇の説得に当たるとともに、反幕府勢力の粛清を指揮しました。その後、政治方針をめぐって井伊直弼と対立し、安政6年12月に老中を解任されました。

中央政治から離れたのちは、書画を好み、明治17年(1884)11月、81歳で逝去しました。

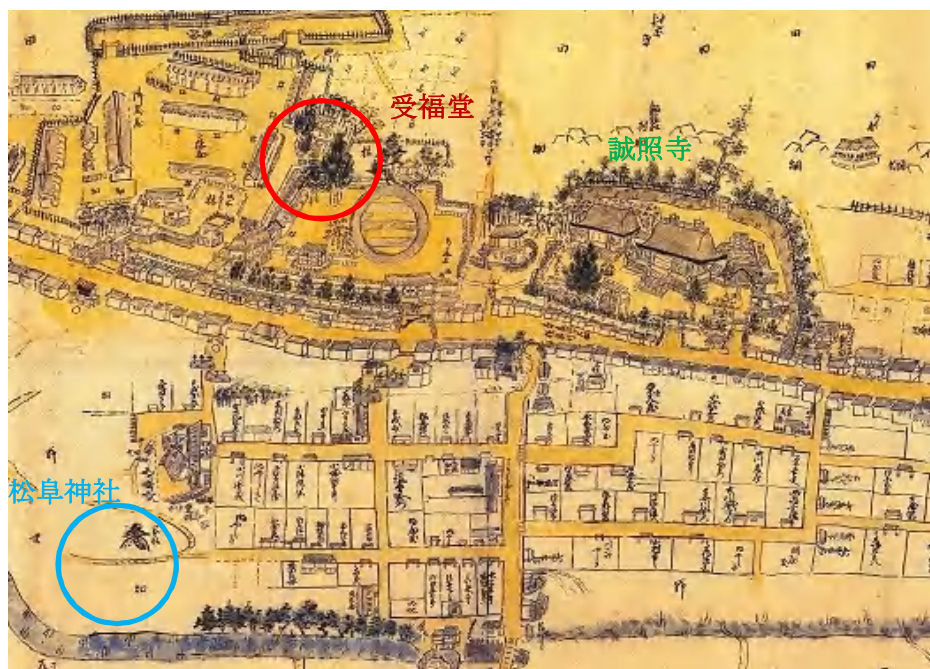


間部詮勝写真

鯖江藩と松阜神社

現在の松阜神社境内がある一帯は、鯖江藩時代の天保年間（1830～1843）までは藩士の居住区域でした。文久4年（1864）、鯖江藩第7代藩主間部詮勝はこの地に集仙亭帰去来庵（松阜仙窟）を建て、藩主の子息や奥方たちの住居としました。

明治維新後しばらくは詮勝自身も隠棲していましたが、明治3年（1870）に間部家が東京へ転出した後に建物は取り壊され、跡地は桑畑となりました。明治15年（1882）、旧藩主間部家を慕う町民らによって当地に松阜神社が創建され、藩邸から萬慶寺に移築されていた藩祖詮房を祀る受福堂も松阜神社境内に移築されたのです。



藩邸内にあった受福堂の場所（現在の屋形稲荷）

松阜神社境内東側にある屋形稲荷・秋葉神社・天満神社の3社はいずれも鯖江城下町および藩邸内にあったものを明治時代になって合祀したものです。特に、秋葉神社は詮勝公が鯖江を火災から守るために遠江国秋葉山から勧請したものです。



受福堂御門